

札幌市立あいの里東中学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本校では「札幌らしい特色ある学校教育推進事業」に参加するにあたって、生徒たちの読書の幅を広げることを目標とした。特に2学年においては1年時から図書館利用が他学年よりも少なく、今年度から図書館のある階に教室を構えても利用する者は限られている。理由を聞くと「図書館の本はいっぱいありすぎてよくわからない」「面白い本を読みたいけど、どの本が面白いかわからない」というものであった。そのため教科書の読書紹介をもとに授業を行い、図書館の本を中心に紹介し、より手に取りやすくすることによって、新しいジャンルや作家に触れる機会を増やすこととした。

2 取組内容

(1) 自分の読書の幅を広げる —POP制作—

① 第1時間目……キャッチコピーの練習

国語の授業でPOP作品を制作する以上、絵などのデザインよりも言葉に重きを置く必要がある。コンビニ店員になったつもりで、おにぎり100円セールのキャッチコピーをそれぞれ考えさせ、書き終えたら他の人の作品を見て回り、心惹かれたものに対して印をつけていく活動を行う。これにより、キャッチコピーは説明ではなく、一瞬で人の心をとらえるものだということを体感的に実感させる。

② 第2時間目……ジャンル分担、本を探す

今回は学校図書館の本を全校生徒に広告する目的もあったため、「日本の小説」「外国の小説」「古典的名作」「詩・短歌・絵本」「ノンフィクション」の5つのジャンルを班で分担し、ジャンルに合致する本を学校図書館内で探した。本を自力で探すことが難しい生徒に対しては、ブックガイドや学校図書館司書に協力してもらい、書きやすい本を紹介していく。

③ 第3時間目……POP作品の書き方の指導

POP作品の書き方を紹介した本を寄託図書から一クラス分借り、書き方の指導を行う。特にあらすじの分量を重視し、字数を制限してあらすじだけのPOP作品にならないように配慮する。また、様々な本の帯を展示することで、キャッチコピーもくりかえし意識させる。実際に制作することは個人の読書スピードによるため夏休み中の宿題とする。

④ 第4時間目……POP作品の投票

夏休み明けに作成したPOP作品の中から、ジャンルごとにどれが一番読みたいと思ったか投票で決める。最も投票が多かった作品は校区の書店で実際に使ってもらい、より多くの人たちに読書を薦めるきっかけとした。



また、完成したPOP作品はすべて廊下に掲示し、そこで紹介されている本も同様に展示して、興味をもったらすぐに読める環境を整備する。

(2) 他者の読書の幅を広げる ―ビブリオバトル―

① 第1時間目……ビブリオバトルのやり方

夏休み明けに読んだ本を使ってビブリオバトルを行う。POP作品が自分の読書の幅を強制的に広げるものだとしたら、ビブリオバトルは他者の読書の幅を広げるものである。読んだ本の魅力を考え、限られた時間でスピーチすることによって、人の心に訴えかける論理構成を学習する。

② 第2・3時間目……ビブリオバトルと投票

ジャンルごとにビブリオバトルを行い、投票で一番読みたい本を決める。本はPOP作品と共に廊下に展示し、授業終了後すぐに読みたいと思った本を手にとることができるように環境を整えた。



3 成果と課題

(1) 成果

POP作品やビブリオバトル後に使用した本を廊下に展示することにより、通りかかるたびに本をめくってみたり熟読を始めたりの生徒が増えた。普段本を読まない生徒も、絵本やノンフィクションの本を読むようになった。朝読書の時間に家から持ってきた本ではなく、図書館の本を読む生徒も増加した。また2学年だけでなく、通りかかった他学年の生徒も興味をもって読み始める姿が見られた。POP作品だけだと読むのを面倒くさがる生徒でも、ビブリオバトルを同時に行ったことにより、「読んでみたい」という気持ちを高めることができたようだ。



授業終了後、展示していた一か月の間は朝読書の時間や休み時間の様子を見ている限り、読書量が全体的に増えていたように思う。展示期間が終わり、本を図書館に戻した10月から12月の間も、「ビブリオバトルであの本が面白そうだったから借りたいんですけど……」とレファレンスを頼む生徒が増加した。特に顕著だったのは11月である。11月は投票の結果、特に優秀だったPOP作品を校区の書店に展示してもらい、より多くの人目に触れるように働きかけていた。その結果、図書館の貸出人数は1年時が77人だったのに対し、2年時は144人で、67人と倍近く増加した。



(2) 課題

2学期中は読書量も図書館利用者数も増えていたが3学期になると例年通りに戻っている。これは紹介された本は面白いと感じて読んでみたいが、自らがたくさんある本の中から面白そうな本を探すことができないことに起因すると思われる。今後は本の探し方を中心に、様々な本に出会える機会を、授業を通して与えていきたい。